

### お一人様をかみしめる

末っ子が幼稚園に入園し、楽しい楽しい「お一人様生活」が始まりました。今はまだお弁当がないので11時までですが…。それでも10年以上、誰かしらくっついてる生活を送ってきたので、たまらなくうれしいものです。



下の子が離れると悲しくなるお母さんもいるようですが、多少の心配はあるものの、うれしさの勝ち☆です。好きなCDをゴソゴソと探し、延長コードを使ってラジカセを家中持ち歩いています。トイレ掃除のときは、トイレの前までも。

ただ、やりたいことがたくさんあって焦ってしまい、気持ちが悪くなってしまうほど…。プレッシャーかしら？ そんな弱いハートを持っていたんだっけ、私？

パソコンを前にすると、1時間はあっという間だし、買い物も「相手を交わすバスケット選手」のように素早い動きで1時間。でも結局は、基本的な家事をこなすので精一杯です。家庭訪問があるから、家の片付けもしなくちゃ。それでも本を読み、片付けの構想を練る。



「マックフルーリー」を一人で食べられる日まであと少し！

(佐々木和枝/藤沢市)

### お揃いの帽子

不器用だけど、手づくりが好き。娘たちにとってはいい迷惑？ でも今しか手づくりの物を使ってくれないと思ひ、なるべくつくるようにしています。



そんな中、今日、帽子を1つ完成させました。青い帽子です。赤いのが完成したのは、ちょうど1年前。

なぜ覚えているかって…。それは、この帽子をつくるときに陣痛が来て、完成と同時に本格的な痛みがきて、その日のうちに下の娘が生まれたからです。

帽子づくりに集中していて、痛みを感じなかったのか、それとも完成まで待って生まれてきてくれたのか。上の子も帽子が出来上がるまで全く起きなかったの、2人とも待っていてくれたのかもしれない(笑)。赤い帽子を見るたびに、その日のことを思い出します。

青い帽子は、偶然にも丸1年ぶりに完成。明日の下の子の誕生日プレゼントにちょうどよかった！

2回目なのに、出来映えはあまり変わらず。でも、前回よりかなり手抜きをしたのと同じくらいの出来というのは、少しは進歩したことになるのかな？ 今度はお揃いのスカートをつくる予定です。



(蛭澤奈津子/登別市)

### 大丈夫だよ

「大丈夫だよ」は、職場の先輩の言葉だ。なんてあたたかく、救われる言葉だろう。

新しい仕事を始めて3か月。まだ慣れず、ドキドキ緊張の日々である。失敗しては落ち込み、うまくいけば一人でにんまり。「どうしても、あわてて失敗しちゃうんですよね」と先輩に言うと、彼女は笑ってこう言った。「大丈夫だよ」。



以前の職場では、「もっとしっかりやらなきゃダメだよ！」と言われるのが常で、つい

落ち込んでしまっていた私。

でも今は、「大丈夫だよ」とやさしく笑顔で言われるので、感謝の気持ちがいっぱいになり、素直に「絶対がんばらなくちゃ！」と思えるから不思議。

家に帰れば、子どもに「何でできないの!」「全く…」と、イライラすることもある。でも考えたら、子どもだって初めてのことばかりで、うまくいくはずがない。

いけないことは、時にはびしょと叱らなければならないが、やはりガミガミ言うよりも、「大丈夫だよ」とやさしく声をかけ、おおら



かな気持ちで子どもに接したいと、心に決めた私。

今の職場では、良き人間関係を学ばせてもらっている。もちろん、人生はすべてが学びだから、悪ければ、それはそれで学ぶことができる。社会に出るのも悪くない。

(尾形智子/川口市)

### 反省と感謝

電車のホームでイスの上に乗って飛び跳ね、遊び始めたカレン。隣のサラリーマンのおじさんに「みんなが座るところだから、汚れるやろ」と怒られ、眠たいのも重なって、子どもはぐずり始めました。

すぐに私が注意するべきでした。注意を受けたあとも、すぐに「すみません」と頭を下げればよかったのです。でも私がとった行動は、カレンをイスから下ろし「ダメだよ」と言ってなだめるのみ。



子どもがしたことだからと、大目に見てしまう甘い

母親。すぐに「すみません、ありがとうございます」と、お詫びはもちろん、叱ってくれたことに対するお礼がなぜ言えなかったのか。

お母さん大学とか言っているのに、人として、大切なこと、何にもできてないな〜と後から反省です。今度はすぐに対応できるようになろう。

ついつい、子どものしたことだから許してもらえようという頭がどこかにある。子どもがぐずって面倒なことにならないように、自分が楽をしようとしてどこかで思っている。これじゃあ、あまちゃんの子どもが出来上がるのは目に見



えている。

きっと注意してくれたおじさんは、「今の若いお母さんはなってないな〜」って思っただろう。

子どもと大いにバトルしてくださいと、以前あるセミナーで言われたっけ。「ダメなものダメ」。社会のルールを大人が、親が、きちんと教えていくことも大事な。

おじさん、今日はありがとうございました。(池田彩/久留米市)

### お母さん業界新聞定期購読申込受付中!

「お母さん業界新聞」にはお母さんたちの思いがいっぱい。新聞を読んだ人はみんな笑顔に。幸せの連鎖が生まれています。

- お母さん業界新聞の特徴
  - お母さんによる、お母さんのための新聞
  - 全国350人のお母さん記者がマザージャーナリズムの視点で発信
  - 日々の子育ての発見や感動、喜びや悩みなど気づき情報が共感(響感)を生む
  - 地域のお母さんによる手配りほか、全国の公共施設など、独自の配布ルート
  - 「お母さん」を感じる新聞  
お母さんはスゴイ! 子育ては素晴らしい!
  - 既存の商品やサービス広告は一切掲載していない
  - 企業のフィルターがかかっていない情報の信憑性

※定期購読は年間3000円。8頁の申込用紙でお申し込みいただけます。トランタンネットワーク新聞社まで。



## 子育て応援団 (企業・団体) 募集!

『月刊お母さん業界新聞』は、一般のフリーペーパー(広告紙)ではなく、子育てをしているお母さんたちが、心から笑顔になるための媒体です。この新聞をひとりでも多くの母親たちに読んでいただけるように、子育て応援団(企業・行政・団体)を募集しています。企業のCSR、地域の活性化、子育て支援、社員教育、販売促進、企業のノベルティ、プロモーション版など、『月刊お母さん業界新聞』のコンテンツを活用したプロモーションをご提案します。

株式会社トランタンネットワーク新聞社  
【お母さん大学】 <http://www.okaasan.net/>  
【トランタン新聞社】 <http://www.30ans.com/>



### クラス写真

長男(小3)の学校では、毎年4月にクラス写真を撮影します。出来上がった写真を見て「うちの子はどこかな?」と探していると…んんっ? 長男、黒眼を上にして、いわゆる「白眼」で映っているではありませんか。おまけに口は半開き…



がーん。なんという顔! こんな顔を目撃するのには、タイミング悪く、眼をつむっちゃっている写真もある。長男もタイミングが悪かったのかな〜。

でも最近は、デジカメで何枚も撮って、眼をつむっていないかなど確認するはず。それなのにこの表情。ということは…意図的にやったに違いない! ほかに仲間がいるのかも? ちょっと注意しておかないと! まるで鑑識のように、写真を端から見返す私。でも、どの子もまっすぐにカメラを見つめ、かわいらしく並んでいます。やっているのは、うちの子1人。

となると、今度は長男に何か問題があるのかと、心配になってきました。いろんな気持ちが入り混じる中、恐る恐る(?) 尋ねました。「どうしてこんな風に映っちゃったん?」「面白いかな〜と思って」「えーっ、やっぱりわざとなの〜!? クラス写真っていうのは、みんな記念にずーっと持っているものなんだよ」「あ、そうなの? ひょうきんに写ってただけだよ」と、悪びれた様子もありません。それでもトホホな気分の私でした。

その晩、帰宅した主人に見せると、大・大・大爆笑! 何度も写真を見返しては大爆笑! その声につられて家族中が大爆笑! そうしているうちに、恥ずかしさも心配も、もちろん怒りも消えました。



「来年は普通に映ろうね」。そうは言ったものの、白眼で写ったクラス写真も記念になるな、と思う私でした。(池田陽子/瀬戸市)

### 電車の中の2つの音

週末の朝の電車内の出来事。まばらに座席に座る人たち。



私の隣に、1人の女の子が乗ってきた。腰を下ろすと、手提げカバンから一冊の本を出し膝の上に広げた。「試験勉強かな?」とチラリと横目で見ると、真っ白な手袋をしたまま(指を冷やさないように?)の両手が、広げられた楽譜の上で、踊るように動き始めた。見えない鍵盤…「あ、これからピアノのレッスンなんだ〜。何を奏でているのかな?」とまたチラリ。おお〜ベートーヴェンの「カノン」だ〜♪

そのうち向かいに座った眠そうな顔のおじいさんも、にぎやかにおしゃべりしていた女の子たちも、脇目も振らずに指を動かす彼女に釘付けになってきた。周りの様子は一切気にせず彼女は、次の楽譜を出してまた音を奏でてゆく。今度は、ハノンの「アルペジオ」♪ 電車の中、彼女の周りの小さな空間だけが、静かなピアノの音色で包まれた。心地良い朝のミニコンサート♪

目的地で席を立った彼女は、きちんとまとめられたヘアスタイルにナチュラルな服装。すっぴんのあどけない初々しさが漂っていた。「きっと制服姿も美しいのだろうなあ」と、私は横顔を見送った。

入れ替わりに座ったのは、外国人の男性。先ほどの余韻に浸ろうと思っていると、耳元でジャカ〜☆ジャカ〜☆にぎやかな音がしてきた。ヘッドホンから漏れる音に、ピアノの音色が打ち消されてしまった。

対照的な2つの音を聴きながら感じたのは、「自分から出す音には責任がある」ということ。ヘッドホン、ケータイ、おしゃべり…いろんな音があるけれど、同じ出すなら、みんなが心地良い音(響き)を奏でたい。

ヘッドホンのボリュームを1つ小さくして、ケータイをマナーモードにして、噂話や愚痴をやめて、ちょっとだけゆっくり行動してみる…。それだけで、ずいぶん公の空間が心地良くなってくるはず。



「歩く騒音発信機」ではなく、「歩く音霊〜♪」になりたいなあ〜。(にしおなおみ/神戸市)